報告事項１別添資料

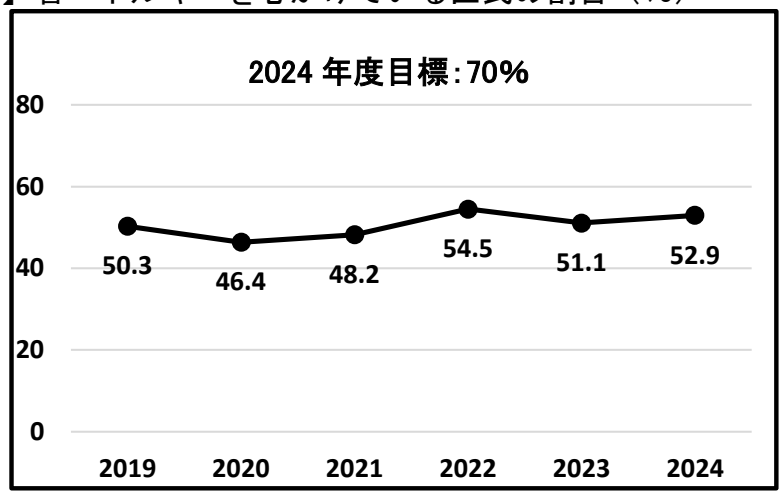
第三次足立区環境基本計画改定版の成果指標・活動指標の実績と推移

柱１　地球温暖化・エネルギー対策

指標と単位（◆：低減目標）			2024 年度実績（目標達成率）	2024 年度目標	目標達成率前年度比
1-1	成果	区内のエネルギー使用量（TJ）◆【2 年前の実績値】	22,668（82.4%）	18,679	＋2.1pt
	活動	助成制度による省エネ支援件数（件）	755（184.1%）	410（※1）	＋11.9pt
	活動	省エネルギーを心がけている区民の割合（%）	52.9（75.6%）	70.0	＋2.6pt
1-2	成果	再生可能エネルギーの導入による二酸化炭素排出削減効果量（ｔ）	22,826（103.8%）	22,000	＋2.5pt
	活動	区の助成による年間の太陽光発電の導入量（kW）	3,053（359.2%）	850（※2）	＋142pt
	活動	再生可能エネルギーの導入量（累計）（kW）	51,883（115.3%）	45,000	＋14.3pt
1-3	成果	区内の二酸化炭素吸収量（ｔ）	3,615（92.7%）	3,900	△0.2pt
	活動	樹木被覆地率（%）	9.7（99.0%）	9.8	±0.0pt
	活動	緑化活動に実際に参加した区民の割合（%）	23.6（135.6%）	17.4	＋40.8pt
1-4	成果	熱中症や気象災害による死者数（人）◆	25（—）	0	±0.0pt
	活動	熱中症対策講座受講者数（人）	5,252（656.5%）	800（※3）	△47.6pt
	活動	河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合（%）	94.2（117.8%）	80.0	＋32.0pt

※1、2、3　次期環境基本計画の策定では、実情に合った目標設定となるよう見直しを進める。

【１－１　活動】省エネルギーを心がけている区民の割合（%）



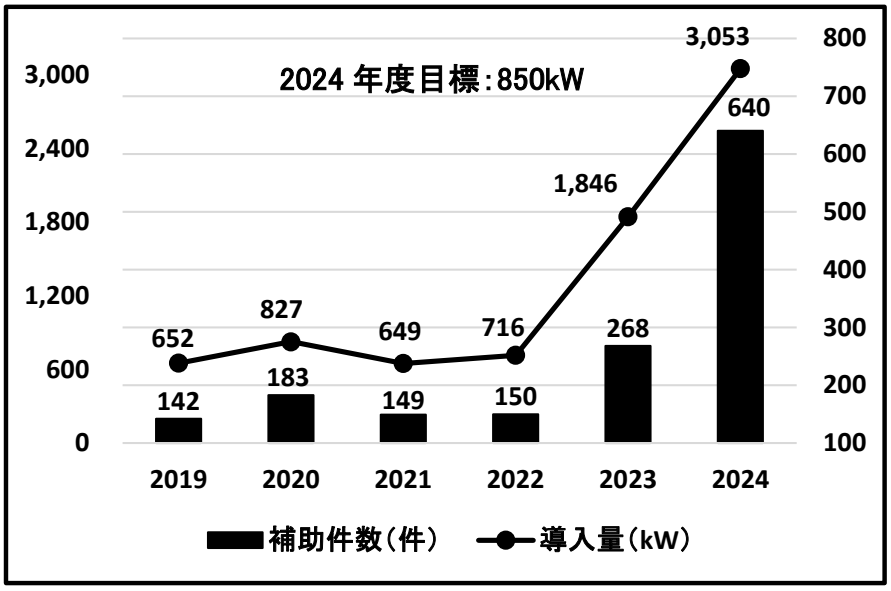
世論調査の質問項目

① 年齢別では、29 歳以下の年代が 45.1%と最も低い結果であった。

② 性別、年齢別では、女性は 60 歳台（63.2%）、男性は 50 歳台（57.1%）が最も省エネルギーを心がけているという結果であった。

③ 「環境のために心がけていること」の設問に対する回答では、ごみと資源の分別（89.0%）やマイバッグ使用（78.3%）が高く、それらに比べると省エネルギーへの意識は低い結果となっている。

【１－２　活動】区の助成による年間の太陽光発電の導入量（kW）

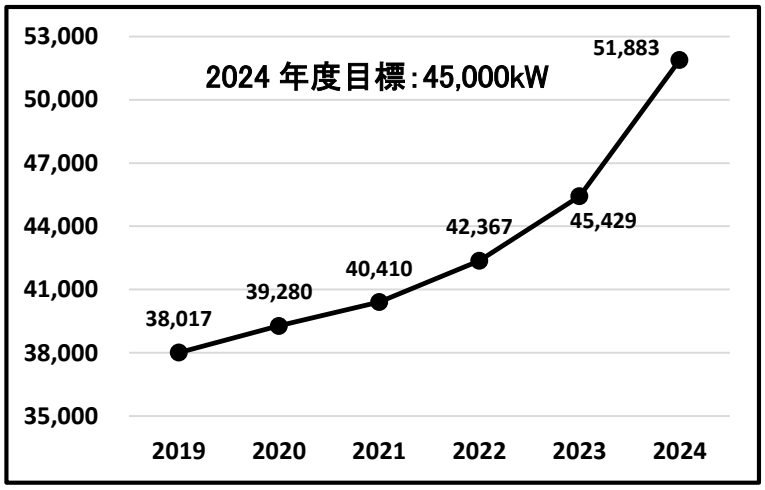


各年度の助成件数も併せて表示

① 2022 年度までは、年 150 件程度の申請件数で推移してきた（2020 年度の助成件数の増については、申請期間を設置後 1 年間としていることから 2019 年 10 月の消費税増税前の駆け込み購入分の申請があった影響）。

② 区と都の補助制度の併用による経済的効果の高さや、周知強化などにより申請数が増加した。2023 年度以降、予算を補正し対応したことにより助成件数が増加している。

【１－２　活動】再生可能エネルギーの導入量（累計）（kW）



資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法　情報公表用ウェブサイト」の足立区の導入容量（累計）

①　導入量は前年度比で大幅に増加し、2024 年度目標である 45,000kW を上回った。

②　太陽光発電設備の新規導入件数

10kW 未満の設置は 1,791 件、導入容量は 6,439kW であった（2023 年度の 10kW 未満の新設は 756 件、3,046kW）。

10kW 以上 50kW 未満では、新規設置 0 件（2022～23 は 1 件、17kW）であった。

（参考）太陽光パネルの設置容量と面積（目安）

10kW⇒100 ㎡⇒ 30 坪　　50kW⇒500 ㎡⇒150 坪

【１－３　成果】区内の二酸化炭素吸収量（ｔ）

2024 年度実績 3,615ｔ（前年度比 7t 減）

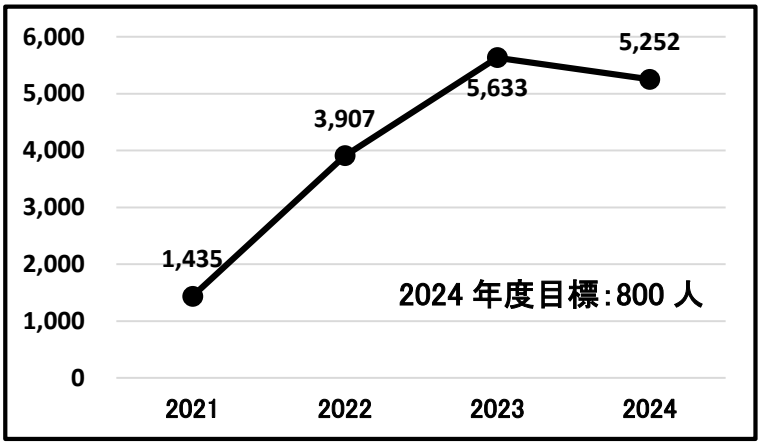
（実績の算定根拠となる数値）

ア　公園数：355（前年度比 2 か所増）

イ　公園面積：317.71ha（前年度比 0.26ha 増）

ウ　街路樹総数：18,696 本（前年度比 320 本減）

【１－４　活動】熱中症対策講座受講者数（人）



（2024 年度実績内訳）

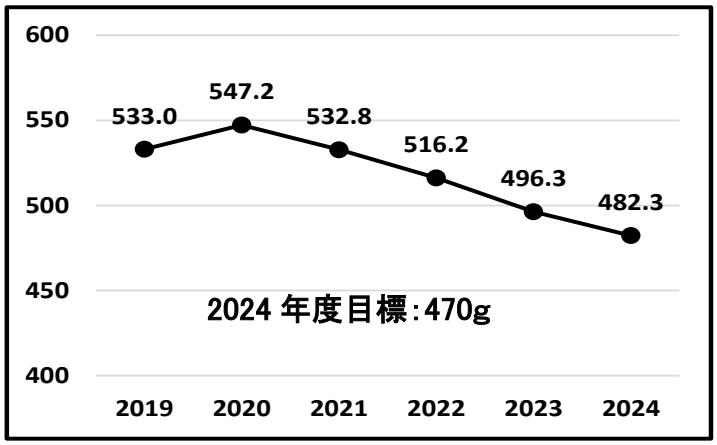
ア　高齢者 3,814 人
　　各住区センターの「涼を得るイベント」内で実施
　　センターに来てもらい涼んでもらうことを目的としている。

イ　小学生 1,438 人
　　緑のカーテン、気候変動、気象予報士の 3 講座

柱２　循環型社会の構築

指標と単位（◆：低減目標）			2024 年度実績（目標達成率）	2024 年度目標	目標達成率前年度比
2-1	成果	区が把握できる廃棄物の量（ｔ）◆	187,215（100.4%）	188,000	＋2.0pt
	活動	区内のごみ量（ｔ）◆	161,631（98.0%）	158,400	＋2.5pt
	活動	１人１日あたりの家庭ごみ排出量（ｇ）◆	482.3（97.4%）	470	＋2.7pt
2-2	成果	燃やすごみに含まれる資源化物の割合（%）◆	13.0（113.8%）	14.8	＋3.4pt
	活動	適正排出のための指導（ふれあい指導）件数（件）◆	2,253（72.4%）	1,632	＋11.6pt
	活動	雑がみを燃やすごみではなく、資源として出している区民の割合（%）	57.5（82.1%）	70.0	＋5.0pt
2-3	成果	資源化率（%）	19.8（92.1%）	21.5	＋2.8pt
	活動	資源買取市の利用者数（人）	2,622（40.3%）	6,500	△4.5pt
	活動	環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合（%）	11.2（80.0%）	14.0	＋2.9pt

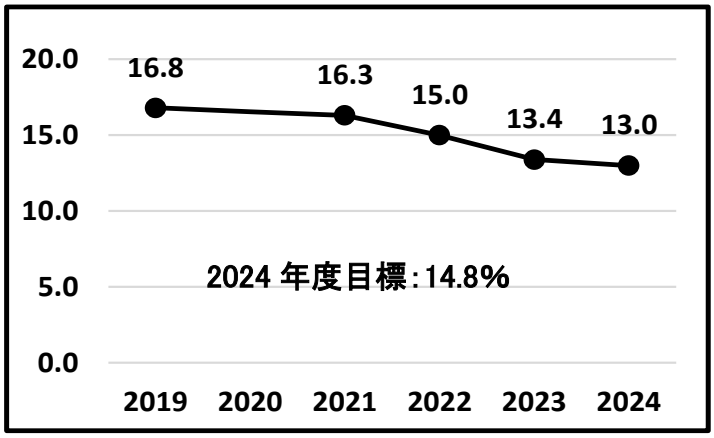
【２－１　活動】１人１日あたりの家庭ごみ排出量（ｇ）（低減目標）



① 区民１人の１日あたりのごみ（燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみ）排出量は、2020 年度にコロナ禍で増加したが、その後は減少傾向で推移している。

② 燃やすごみの減量や廃棄物の資源化に関する情報発信、啓発の効果もあり実績は減少してきたが、2024 年度目標である 470g には届かなかった。

【２－２　成果】燃やすごみに含まれる資源化物の割合（%）（低減目標）

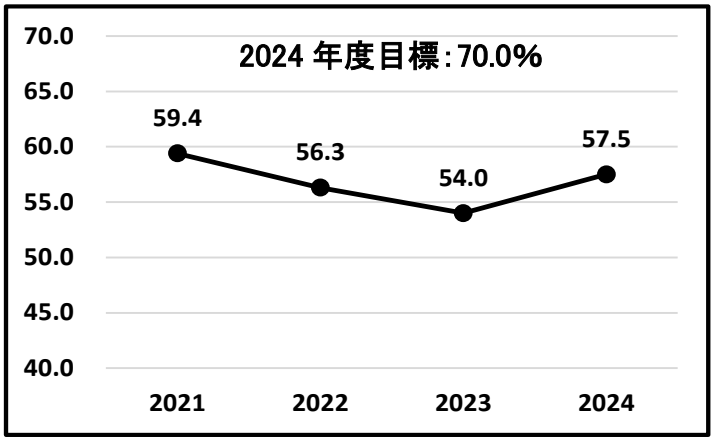


2020 年度は組成調査未実施

① 実績が 2024 年度目標値を達成した。

② 2024 年度の世論調査結果では、「ごみと資源の分別を実行している」と答えた区民の割合は 89.0%と高く、分別への意識の高さが実績に表れている。

【２－２　活動】雑がみを燃やすごみでなく、資源として出している区民の割合（%）

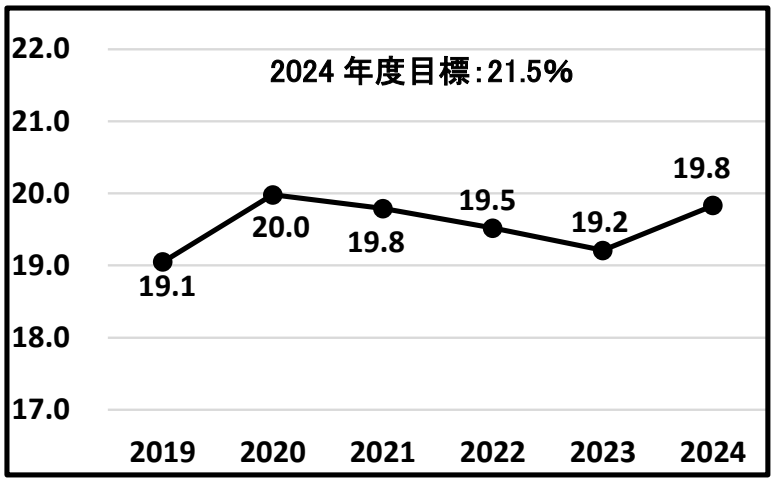


世論調査の質問項目（2021 年度新規設定）

① ごみと資源の分別全体への意識（89.0%）と比較すると雑がみの分別への理解、意識は低いと言える。

② 居住年数別でみると、20 年以上足立区に住む方が 67.0%と最も多く雑がみの分別を行っている。在住期間が短いほど雑がみの分別ができていない傾向がみられている。

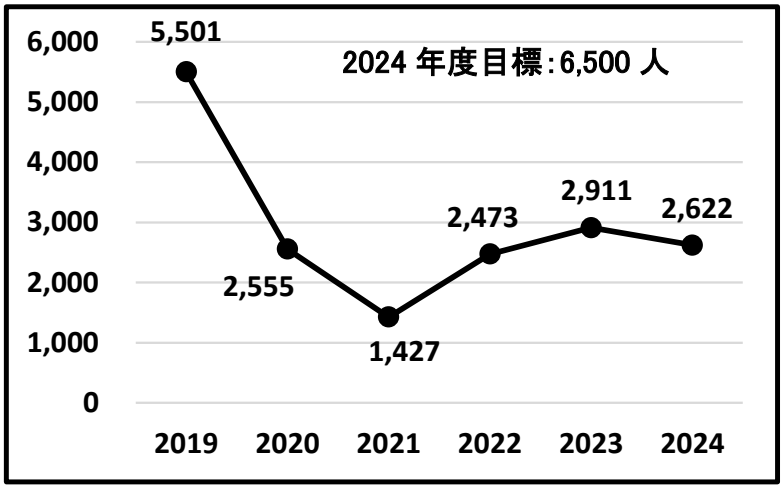
【２－３　成果】　資源化率（%）



資源化率

（資源回収量＋燃やさないごみを資源化した量＋粗大ごみを資源化した量）÷（区が収集したごみ量＋区が収集した資源化物量＋集団回収量）×100

【２－３　活動】資源買取市の利用者数（人）



① コロナ禍以降、資源買取市が再開し、利用者数も回復傾向にあったものの、回収拠点となる事業者が一社減少したこともあり、実績が再び減少に転じた。

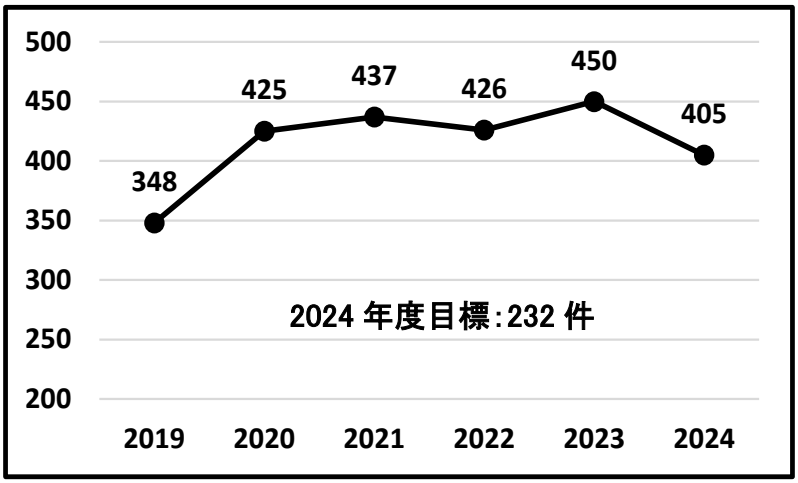
② デジタル化や、コロナ禍以降のライフスタイルの変化により、回収量が最も多い古紙（新聞、雑誌等）の発生量自体が減少していることが実績減少の最も大きな要因とみられる。

柱３　生活環境の維持・保全

指標と単位（◆：低減目標）			2024 年度実績（目標達成率）	2024 年度目標	目標達成率前年度比
3-1	成果	公害苦情の相談件数（件）◆	405 (57.3%)	232	＋5.7pt
	活動	公害苦情相談の解決率（解決件数／受付件数）（%）	94.3 (94.3%)	100	△11.3pt
	活動	適切なアスベスト対策を行っている解体等工事現場の割合（%）	50.0 (100.0%)	50.0	＋40.6pt
3-2	成果	ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合（%）	61.8 (123.6%)	50.0 (※)	＋8.8pt
	活動	ごみゼロ地域清掃活動の参加者数（人）	61,607 (77.0%)	80,000	＋9.7pt
	活動	不法投棄処理個数（個）◆	6,933 (105.3%)	7,298	＋1.5pt

※　次期環境基本計画の策定では、実情に合った目標設定となるよう見直しを進める。

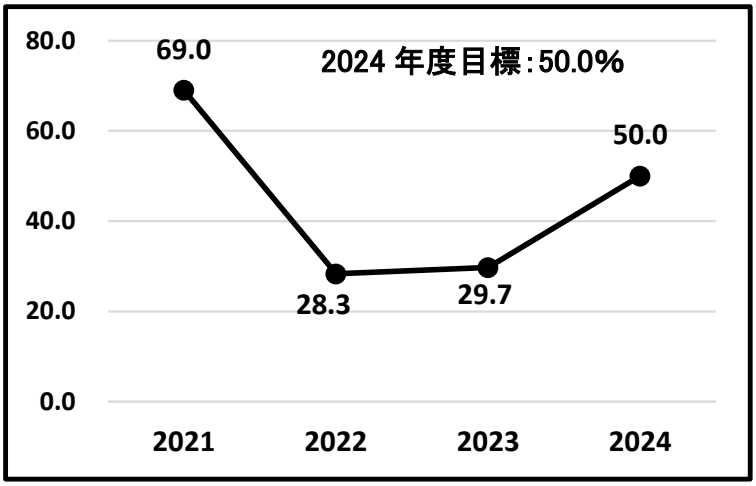
【３－１成果】公害苦情の相談件数（件）（低減目標）



①　低減目標の指標。相談件数は減少に転じたが、依然として 400 件を超えている状況で目標は達成できなかった。

②　発生源別では建設現場が最も多い状態がコロナ禍以降続いており、働き方の変化により、昼間の在宅者が増えたことが苦情件数に影響していると考えられる。

【３－１活動】適切なアスベスト対策を行っている解体等工事現場の割合（%）



区が立ち入った現場の総件数のうち適切なアスベスト対策(※)が行われていた件数の割合

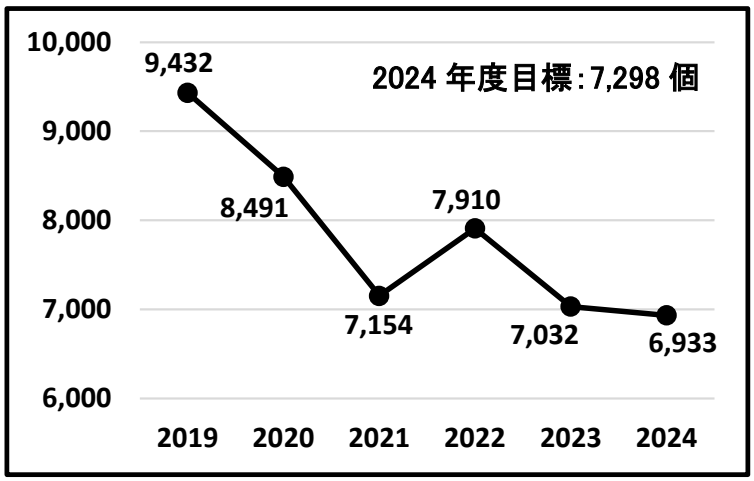
※　有資格者による調査結果や、施工計画、法令の規制などに基づいて行われていることを示す。

2021 年度はアスベスト工事の届出があった現場を対象としていたが、2022 年度からは解体等工事現場のパトロールを実施し、アスベスト調査結果報告がない現場にも積極的に立ち入った（立入件数全体の約４割）結果、2022 以降の実績が低下している。

①　違反内容の多くがアスベスト調査結果の掲示の不備や、調査結果報告の漏れであり、アスベスト含有建材の見落としや不適切な取り扱いの事例は少なかった。

②　①よりアスベスト調査に関する法令についての知識が不足していることが原因と考えられるため、建設リサイクル法の届出等の機会を捉えて、制度の周知を継続していく。

【３－２活動】不法投棄処理個数（個）（低減目標）



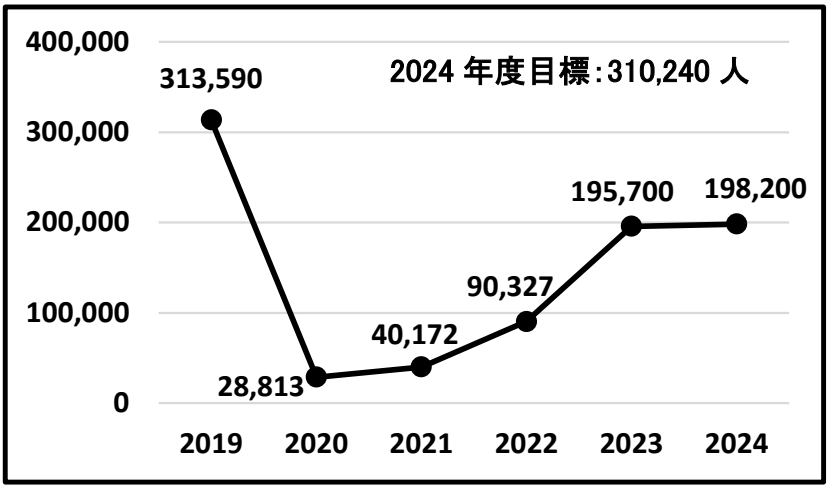
不法投棄され、区が処理したごみ、自転車、バイク、家電の合計

①　通報協力員制度の活用による通報強化や、不法投棄されにくい環境づくりを進めた結果、未然防止につながり、処理個数が前年度比 99 個減となり 2024 年度目標を上回った（低減目標）。

柱４　自然環境・生物多様性の保全

指標と単位（◆：低減目標）			2024 年度実績（目標達成率）	2024 年度目標	目標達成率前年度比
4-1	成果	自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合（%）	26.2 (65.5%)	40.0	＋5.7pt
	活動	生物とふれあう事業の参加者数（人）	198,200 (63.9%)	310,240	＋0.8pt
	活動	自然や生物に関する情報発信回数（回）	3,131 (97.8%)	3,200	△16.6pt
4-2	成果	まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合（%）	62.6 (97.2%)	64.4	＋4.0pt
	活動	保存樹林指定箇所数（箇所）	31 (103.3%)	30	＋3.3pt
	活動	緑豊かな景観形成に取り組む団体・区民の数	1,213 (92.5%)	1,312	△1.5pt

【４－１活動】生物とふれあう事業の参加者数（人）



（内訳）

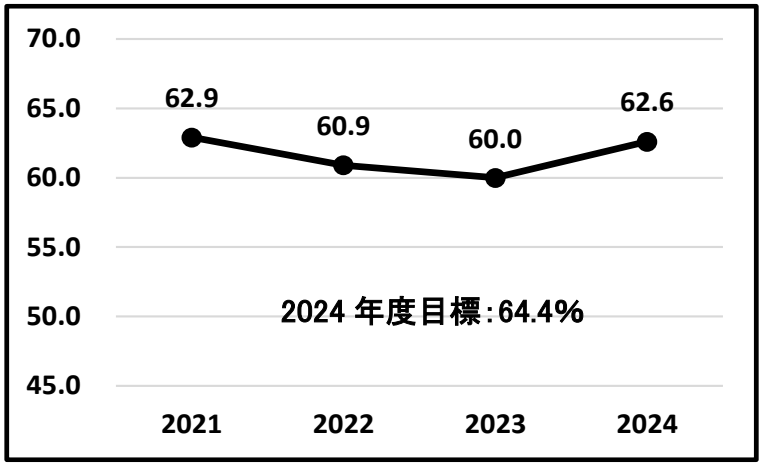
ア　生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ：195,307 人

イ　あだち自然環境デー、環境学習ツアー、「あだち生きもの図鑑をつくろう」（アプリを使い区内で見つけた生きものを撮影、投稿するイベント）等：2,893 人

① 生物園などの施設で実施する生物とふれあう事業の実施回数が昨年度比で 121 回増加した。

② 自然環境について学び、体験する環境学習事業については、屋外の催し実施日の天候不良が影響し、前年度比で実績が減少した。

【４－２成果】まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合（%）



世論調査の質問項目（2021 年度新規設定）

① 実績は、前年度から増加したものの、目標を達成することはできなかった。
年代別では、30 歳代から 60 歳代までが前年度比増であったのに対し、29 歳以下と 70 歳以上で前年度を下回った。

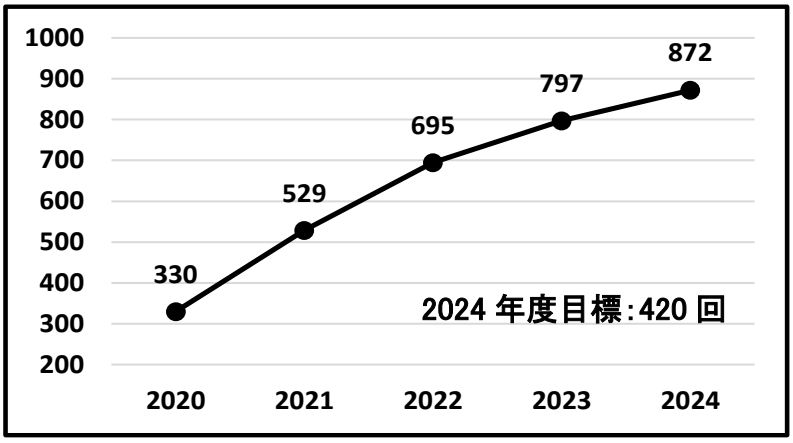
柱５　学びと行動のしくみづくり

指標と単位（◆：低減目標）			2024 年度実績（目標達成率）	2024 年度目標	目標達成率前年度比
5-1	成果	日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していると答えた区民の割合（%）	69.1 (86.4%)	80.0	＋1.0pt
	活動	環境に関する情報発信回数（回）	872 (207.6%)	420 (※1)	＋17.8pt
	活動	環境学習プログラムに参加し、修了した人の数（累計）（人）	923 (96.3%)	958	＋1.3pt
5-2	成果	自主的な環境保全活動数（回）	9,399 (671.4%)	1,400 (※2)	△16.2pt
	活動	区が実施する環境配慮を促す事業の数（事業）	77 (96.3%)	80	＋1.3pt
	活動	エコ活動ネットワーク足立の登録団体数（団体）	－(※3) (—)	95	－

※1、2　次期環境基本計画の策定では、実情に合った目標設定となるよう見直しを進める。

※3　　事業終了（ＳＤＧｓパートナーへの登録を案内）

【５－１活動】環境に関する情報発信回数（回）



環境部がＳＮＳ、広報紙、チラシ、ポスター等で環境に関する情報を発信した回数
（情報発信の内容）

ア　太陽光発電システム等補助事業の周知活動

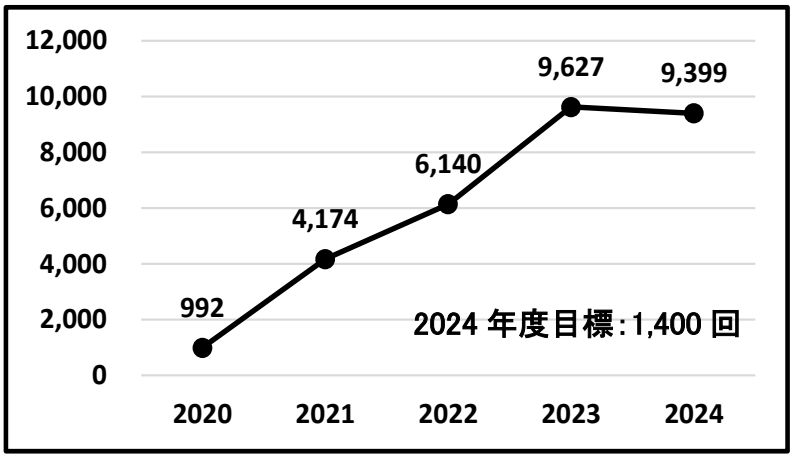
イ　環境基金の活用案内

ウ　廃食油回収（新規）や生ごみ処理機活用促進の周知

エ　ごみ屋敷対策事業啓発ポスターの掲示やＳＮＳでの情報発信

オ　不法投棄や落書き対策に関するＨＰやＳＮＳを活用した情報発信

【５－２成果】自主的な環境保全活動数（回）



野鳥モニターの自主活動数、環境基金採択事業の実施数、フードシェアリングサービス(※)の利用数の合計値

※　店舗から廃棄となりそうな食品の情報をアプリにより提供、必要とする方とつなぐことで食品ロスを防ぐ取組